

平成25年度事業報告

	事業項目	目 標	具 体 的 行 動 計 画	担 当	成 果	
助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業		1) 子育て・女性健康支援が推進される	(1) 子育て・女性健康支援センター事業(ハローベビーかながわ)の推進	事業部(ハローベビーかながわ)	1,041回の相談を受け、1,062件の相談内容に対応した	
			(2) 子育て・女性支援センター事業による「ふれあい助産師サロン」の開催	事業部(ハローベビーかながわ)	ベビーマッサージ述べ6回47名、母乳相談6回10名が参加	
			(3) 助産師が伝える「いのちのはなし」事業の推進	事業部(いのちのはなし)	・16件の依頼を受け助産師を派遣し、述べ3,017名が受講 ・リーフレット作成準備を行った	
	1、助産及び母子保健の知識の普及・啓発活動	2) 助産及び母子保健の知識が普及される	(1) 出前講座を行うことによって助産及び母子保健の知識が普及される	事業部(出前講座)	a. 各種講座への講師派遣	a. 関連企業への助産師派遣のみ行なった ※1. 3). (2) 参照
			b. タクシードライバーへの研修		b. 担当者増員し会議4回、1回講習会開催	
			c. ブライダルマタニティセミナー		c. 会議開催:14回 開催 ・ブライダル企業へのプレゼンのための企画書作成 ・ブライダルマタニティセミナーのパワーポイント作成 ・助産師による女性のための健康講座 ～貴方が素敵に輝くために～ パワーポイント作成 ・企業へのプレゼン2件実施 ・助産師による働く女性のための妊娠出産育児講座 パワーポイント作成、講義実施	
			d. 助産師学生を対象とした講座		2月18日(東京:岡田啓・村上)、3月3日(神奈川:岩田・村上)、3月7日(東京:岡本・村上)の計3か所において助産師学生を対象に「もうすぐ助産師になるみなさんへ」というテーマで出前講座を実施した	
	3) 行政・関連団体・企業との連携が強化される	(1) 周産期関連団体や行政機関との連携強化	理事会・助産所部会	行政や政党へ要望書を提出した。医療関連団体と随時相談し、連携強化を図った		
		(2) 関連団体・企業と連携した情報発信や妊産婦への支援	事業部(助産師派遣)	5カ所に述べ29回、66名の助産師を派遣		

	事業項目	目 標	具 体 的 行 動 計 画	担 当	成 果
助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業	2、助産師業務の安全管理及び支援事業	1)助産師業務の安全管理が推進される	(1)安全対策委員会にて事例分析を行い、事故再発防止に努める	安全対策委員会	全11回の会議開催し、助産所部会の158件の搬送事例を事例検討した
			(2)安全対策(リスクマネジメント)研修の開催	助産所部会・安全対策委員会・4部会合同研修会特別委員会	(安全対策)6月8日にリスクマネジメント研修を開催し、27名の参加があった (4部会)2月22日に横浜市情文ホールにおいて、4部会合同研修会を「周産期における医療事故-安全を守る助産師の判断と責任-」というテーマで開催した。神奈川県内外から非会員59名、学生65名を含む193名の参加があった
			(3)助産所業務ガイドラインの厳守	助産所部会	転院・搬送・異常報告書提出から部会で症例検討し、ガイドラインの厳守に努めた
			(4)助産所部会による全例の転院異常報告がされ、事例検討する	助産所部会	IT分娩基本データ・報告書を通して検討した
			(5)周産期ネットワークに助産所が組み込まれ、医療連携を強化する	理事会・助産所部会	行政や政党へ要望書を提出した。医療関連団体へも随時相談し、連携強化を図った
			(6)嘱託医・嘱託医療機関との連携を強化する	助産所部会・勤務部会	(助産所部会)7月11日第5回報告会を開催した。 (勤務部会)「低体温療法」の学習会の企画を加えた
			(7)助産所安全管理評価・日本助産評価機構助産所評価を推進する	助産所部会	助産所安全管理評価は第3者(他の助産所)による評価を実施した。日本助産評価機構の助産所評価も推進した(1助産所が評価を受けた)
			(8)助産師の損害賠償保険加入を推進する	助産所部会・保健指導部会・勤務部会	(助産所部会)分娩を取り扱っている助産所は100%加入していた(勤務部会)積極的に取り組めなかった、今後は、診療所に勤務する助産師へのPRなどを進める (保健指導部会)2度の部会集会で損害賠償保険加入の必要性について説明した。今後はどれくらいの部会員が加入しているかの調査が必要。
			(9)保健指導部会のヒヤリハット事例が報告され、事例検討する	保健指導部会	ヒヤリハット事例1件あり、委員会で検討した
			(10)新生児蘇生講習会・フォローアップ研修会の開催(NCPR特別委員会の継続)	NCPR特別委員会	合計6回の会議を開催。NCPR講習会Bコース2回(6月、12月)、フォローアップ講習会1回(9月)開催した
	2)各種の支援事業が推進される	(1)災害発生時の妊産婦、女性を支援する体制が整う	災害対策委員会	6回の委員会開催。災害対策マニュアルの完成。研修会1回開催し、災害時支援について学んだ	
		(2)院内助産・助産外来の開設を支援する	理事会・事業部	希望がなかったため、H25年度は取り組まなかった	
		(3)すくすく赤ちゃん献金事業が充実する	理事会	8名の預かり金24万円を本部同事業に送金、県総会にて神奈川県里親会に献金7万円の贈呈	

の	事業項目	目 標	具 体 的 行 動 計 画	担 当	成 果
助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業	3、調査・研究	1)各部会等における活動内容のデータが収集される	(1)助産所に関する安全管理のデータ収集	助産所部会	・平成25年10月～平成26年1月 第3者による助産所安全評価を実施した ・毎月の分娩数・転院数の集計、転院異常報告書の集計し、ホームページに掲載した
			(2)保健指導部会のヒヤリハット事例に関するデータ収集	保健指導部会	セミナー開催後の部会集会にて内容の周知に努め、事例収集を行なった(1例収集)
			(3)助産所実習の受け入れ状況と就職状況のデータ収集	教務部会	平成26年度の実習生の動向データ収集し、ホームページに掲載した
		2)母子保健活動の実態に関するデータが収集される	(1)子育て・女性健康支援センター事業(ハローベビーかながわ)のデータ収集	事業部(ハローベビーかながわ)	電話相談のデータを集計し、ホームページに掲載し
			(2)いのちのはなし事業のデータ収集	事業部(いのちのはなし)	講演先のデータを集計し、神奈川母性衛生学会に発表した
助産師の資質向上のための教育及び環境整備に関する事業	1、助産師及び助産師養成機関学生及び看護職の能力向上・スキルアップ	1)助産師の資質が向上される	(1)助産所部会による最新知識に基づく助産実践のための研修会企画	助産所部会	9月16日、11月30日・2回最新医療に基づく研修会開催
			(2)保健指導部会による母子保健指導者のスキルアップ研修会企画	保健指導部会	2回開催 6/22セミナー実施、参加者(AM会員:37人非会員20人合計57人,PM会員:36人非会員21人合計57人) 1/26セミナー実施、参加者(AM会員:33人非会員12人合計45人,PM会員:28人非会員5人合計33人)
			(3)勤務部会による勤務助産師スキルアップのための研修会企画	勤務部会	8月「元気な体をつくる食事」保健指導につながる研修・12月「産婦の身体の声をきく」分娩期のケアにつながる研修を開催
			(4)「ハローベビーかながわ」による相談員スキルアップのための研修会企画	事業部(ハローベビーかながわ)	2回開始 のべ54名が参加した
			(5)研究等における倫理的妥当性を審査するための倫理委員会の設立	倫理委員会	本会における倫理審査のシステムを整備すべく、会議を6回開催した。倫理審査を開始したこと、および申請の流れや申請書式等について12月に会員に周知すべくHPに掲載した。研究倫理審査を1件実施した。
			(6)産後ケアに関する研修会企画 ※年度途中からの新規事業	産後ケア(事業部)	委員会の立ち上げ、会議を3回実施。3月18日に「助産師力を発揮する産後ケア」研修会を開催した。参加者 41名であった。

	事業項目	目 標	具 体的 行 動 計 画	担 当	成 果
助産師の資質向上のための教育及び環境整備に関する事業	1、助産師及び助産師養成機関学生及び看護職の能力向上・スキルアップ	2)助産所における円滑な学生実習の受け入れがされる	(1)教務部会による実習調整	教務部会・助産所部会	(教務部会)システムを活用した実習調整は定着してきたが、実習受け入れ校の実習内容等が反映した調整システムの検討が課題 (助産所部会)12月12日実習調整を各教育機関教務と開催した
			(2)学校と助産所の連携強化	教務部会・助産所部会	(教務部会)実習費等、学校・助産所で検討し基本線を決定した ・46校の実習受けており実習環境等に関して、助産所と学校を連携の強化が課題 (助産所部会)12月12日実習調整を各教育機関教務と開催した
	2、助産師の労働環境の改善	1)助産師の労働環境の改善がされる	(1)病院・診療所における勤務助産師の適正配置に関する行政への要望	理事会・勤務部会	要望を絞り込むのにあたり、H25年度は見送った
			(2)周産期医療ネットワークに助産所が組み込まれるよう産婦人科医会・行政に要望	理事会・助産所部会	行政や政党に対して要望書提出
			(3)新規開業や契約解除による嘱託医・嘱託医療機関の確保	助産所部会	新規開業はなし、嘱託医療機関契約に関しては組織として地域の医療機関産婦人科医へ相談した
			(4)助産所に勤務する助産師の適切な労働環境の検討	助産所部会	各助産所で勤務条件に基づく労働環境整備を行った
			(5)助産師の復職やリフレッシュ化を支援する	理事会・事業部	助産院留学9名を4施設にて受け入れ実施。助産所部会・保健指導部会の留学受け入れ施設を募集した。 8か所の施設が登録

∞	事業項目	目 標	具 体 的 行 動 計 画	担 当	成 果
助産所の運営	1、会立助産所の運営	1)健全な運営と経営の確立がされる	(1)とわ助産院運営会議開催	管理部(とわ助産院運営会議)	9回の開催し助産院運営について話し合った
			(2)理事会にて毎月の運営状況報告	管理部(とわ助産院運営会議)	理事会にて毎月報告した
			(3)財務委員会に参加し、経営状況の把握、経営の修正を行う	管理部(とわ助産院運営会議)	9回参加し経営について検討した
			(4)入院助産・出張分娩を含めた積極的な分娩受け入れ	管理部(とわ助産院運営会議)	分娩件数62件(助産制度での受け入れ2件)
			(5)妊婦健診・乳房マッサージ・出張指導・産後健診の実施・産褥入院の受け入れ	管理部(とわ助産院運営会議)	妊婦健診488件・産後健診67件・母乳外来388件・産後ケア入院25件(うち横浜市事業9件)
			(6)研修生の積極的な受け入れ	管理部(とわ助産院運営会議)	5名(のべ33日)
			(7)設備充実	管理部(とわ助産院運営会議)	5年たち破損、古くなるものもあり備品購入を行った
			(8)積極的な広報活動(ホームページの充実・管理)	管理部(とわ助産院運営会議)	HPを更新することにより広報活動を行なった
			(9)研修室の活用(各教室の開催、一般への貸し出し、助産師会の使用)	管理部(とわ助産院運営会議)	一般貸出が増加した。他委員会、研修会の活発に活用された
			(10)固定資産管理(店舗総合保険加入継続)	管理部(とわ助産院運営会議)	加入継続
			(11)建設資金借り入れの返済	管理部(とわ助産院運営会議)	銀行より借入し、会員への返済(1千万)に充てた。(詳細は別紙事業報告書参照)
			(12)修繕積立	管理部(とわ助産院運営会議)	20万円の積み立てを行った
		2)地域貢献事業が推進される	(1)地域子育てとの連携・福祉保健センターとの連携強化	管理部(とわ助産院運営会議)	横浜市産後ケア事業の開始とともに近隣HCとの連携強化が出来た
			(2)母子にむけた各教室の開催・沐浴教室の開催・産後ヨガ教室定期開催	管理部(とわ助産院運営会議)	・4講座の定期開催・沐浴教室10回 ・とわの日のイベント開催には50組以上の母子の来院あった
			(3)ふれあい助産師サロンの開催	とわ助産院・ハローベビーかながわ	12回開催
			(4)ハローベビーかながわ電話相談の管理	管理部(とわ助産院運営会議)	日曜日以外の電話管理を行った
			(5)各企業・団体への 師派遣	管理部(とわ助産院運営会議)	愛知県助産師会へ講師派遣

事業項目	目 標	具 体的 行 動 計 画	担 当	成 果
助産所の運営	1、会立助産所の運営 3)安全対策が推進される	(1) 嘱託医・嘱託医療機関との連携強化	管理部(とわ助産院運営会議)	医療機関との2回/年・嘱託医とは5回/年の連絡会参加
		(2) 安全面に考慮した従業員の充実	管理部(とわ助産院運営会議)	登録助産師以外にも会員へ依頼し、多忙時に協力を得た
		(3) 安全管理指針の徹底	管理部(とわ助産院運営会議)	遵守するよう努力した
		(4) 記録類の充実	管理部(とわ助産院運営会議)	・本部の基本データ管理システムに加入 ・カルテ一部改正した
		(5) 従業員の安全管理研修の受講	管理部(とわ助産院運営会議)	リスクマネジメント研修に参加した
		(6) 施設の防犯管理	管理部(とわ助産院運営会議)	セコムシステム・保険加入・避難訓練を実施した
		(7) 助産所業務ガイドラインの遵守	管理部(とわ助産院運営会議)	ガイドラインを遵守し、逸脱する行為は行わなかった
		(8) 日本助産評価機構「助産所評価」の検討	管理部(とわ助産院運営会議)	来年度認定への準備を行った
	4)助産の質が向上される	(1) 研修会への積極的な参加と自己研鑽	管理部(とわ助産院運営会議)	研修会8回の参加
		(2) 分娩予定数により増員を考慮・登録助産師との協力体制の強化(登録助産師とのMTG)	管理部(とわ助産院運営会議)	助産師1名募集をかけた

10	事業項目	目 標	具 体 的 行 動 計 画	担 当	成 果
会員相互扶助に関する事業	1 ・ 会員相互扶助	1)組織が強化される	(1)本部活動との連携	理事会	助産所部会員・勤務部会員・安全対策委員を派遣して、協力した
			(2)会員増加・退会減少対策の推進	組織強化委員会	入会チラシ配布。会独自のクリアファイル製作配布。新入会キャンペーンをはり、新入会者紹介者に特典を与え会員増加に努めた
			(3)会員ネットワークの推進	組織強化委員会	新入会キャンペーンをはり、新入会者紹介者に特典を与えた
			(4)行政・関係団体への要望・陳情・寄付依頼活動	理事会	各政党に要望書を提出し、ヒアリングに参加した 関連企業に公益事業に対する寄付をお願いした(個人3名、企業5社、物品の寄付2名からの寄付があった)
			(5)適切な事務運営・財務管理	理事会・管理部(財務会議)	定例会議11回実施。会計監査、上半期決算会議、H26年度予算会議を実施した
			(6)ホームページの定期的な更新など広報活動を活性化	広報委員会	計8回会議を開催し、会員への発送(5回)や広報誌の検討、企画・発行(2回)を行った
		2)福利厚生が充実する	(1)表彰	理事会	各種表彰を行った(別紙)
			(2)叙勲、表彰推薦	理事会	各種表彰推薦を行った(別紙)
			(3)慶弔	理事会	慶弔規定に則り、会員への慶弔を行った(0件)
			(4)懇親会	理事会	総会後の懇親会、助産所部会報告会後の懇親会、各種研修会後の講師との懇親会を企画・協力した
			(5)研修会チケット発行(2000円券3枚へ)	理事会	会員へ研修会チケット2000円券3枚配布し、259枚の利用があった